

講演会の案内

日仏会館 人文社会系セミナー(seminaire en SHS)

日時：2016年11月25日(金) 18:00-20:00

会場：日仏会館 501 室

講師：ドミニク・カリファ(パリ第1大学教授)

Dominique KALIFA (Univ. Paris 1 Pantheon-Sorbonne/Institut Universitaire de France Centre d'histoire du XIXe siecle)

講演テーマ：La veritable histoire de la Belle Epoque

「ベル・エポックとは何だったのか」

司会：小倉孝誠（慶應義塾大学）

共催：日仏歴史学会

参加費 無料

通訳あり / 定員 40名 / 要事前予約

詳細は、以下の URL をご覧下さい。

<http://www.mfjtokyo.or.jp/mfjtokyo2/ja/events/details/715.html>

慶應義塾大学・スーパーグローバル事業の一環として招聘されるドミニク・カリファ氏（パリ第1大学教授）の講演会セミナーを、日仏歴史学会共催のもとで上記のように開催します。カリファ氏は、近代フランスの社会史・文化史が専門で、特に犯罪、警察・司法制度、メディア、大衆文化などについて多くの著作を刊行しています。主著の一つが最近邦訳されました。

20世紀初頭はベル・エポックと呼ばれ、1930年代以降フランス人は、華やかな繁栄の時代としてベル・エポックを規定してきました。それは20世紀に作られた「黄金時代」の神話とも言えます。なぜフランス人はそのような神話を必要としたのか。まもなくベル・エポックに関する著書を上梓するカリファ教授が、表象の歴史という視点からこの問題に迫ります。

なおカリファ氏の主要著作は次のとおりです。

L'Encre et le sang. Récits de crime et société à la Belle Époque, Fayard, 1995.

Naissance de la police privée, Plon, 2000.

Crime et culture au XIX^e siècle, Perrin, 2005.邦訳：『犯罪・捜査・メディア—19世紀フランスの治安と文化』、梅澤礼訳、法政大学出版局、2016年。

La Civilisation du journal, en collaboration, Nouveau Monde Éditions, 2011.

Les Bas-fonds. Histoire d'un imaginaire, Seuil, 2013.

当日はカリファ氏の講演の後、議論と質疑応答に十分な時間を取る予定です。お気軽にご参加ください。

小倉孝誠（慶應義塾大学）